

人の手を介して 移動した生きものたち

八幡川
あましろ…
ふつく
9.16

野生の生き物は、それらが生活している地域の地形、それぞれが生きてきた歴史、他の生き物たちとの関係などによって、長い年月を経て多種多様に変化してきたと考えられています。その結果として、さまざまな色彩、体形や習性を獲得しながら、地球上のあらゆる地域に広がったとされています。

ところが人間のちょっとした行動が引きがねとなり、自然環境を単純化し、そこに住んでいる野生の生き物の存続が脅かされているのです。

今回取り上げている「人の手を介して移動した生きものたち」はほんの一例です。

それぞれの地域で見られる多種多様な生き物や環境は、かけがえない貴重な財産なのです。

- 人の手を介して外国から日本へ持ち込まれたり、紛れ込んだ生き物を「外来生物」と言い、それらの中で、自然に野生化したものを「帰化生物」と呼びます。
- 動植物を移入する場合には、人間の手で完全に管理することが可能で、野生化の恐れのないものに限るなど慎重に行わなければなりません。

コイ



錦鯉

黒鯉

八幡川ではコイはどこに生息し、どんなものを食べているのでしょうか。コイは八幡川のどこでも見ることができます。コイは少くは海水が混ざっていても、また、少くは汚れた水でも生きることができます。それ程、生命力が強いと言えます。また、口に入れられるものなら何でも食べ、川の掃除をしてくれます。

川の掃除屋さんと言えば聞こえはいいのですが、コイが多くなりすぎると水生生物なども食べられて、何もいなくなってしまいます。

さて、八幡川のコイではありませんが、人の手によってアメリカに運んだ日本のコイがミシシッピー川で異常繁殖し、アメリカの在来の魚が減少しているそうです。

野生のコイは警戒心が強いので、ほとんど見ることはできませんが、八幡川でゆうゆうと泳いでいるコイは誰かが放流したのかもしれない。

オオクチバス・ブルーギル

オオクチバス（ブラックバス）やブルーギルは、ゲームフィッシュとして北米から我が国へ移入されたものです。



オオクチバス（ブラックバス）

今ではオオクチバスやブルーギルのいない池や川はないといわれるくらい全国的に繁殖しています。もちろん八幡川にもいます。

自然界の生き物は常に「食う・食われる」といった関係、すなわち食物連鎖によってバランスが保たれています。そこへ、オオクチバスやブルーギルなどの大量肉食性で補食性の強い魚を移入すると、在来の小魚などはほとんど食べられてしまいます。

せめて、オオクチバスやブルーギルは再放流しないようにしましょう。



ブルーギル

セイタカアワダチソウ



セイタカアワダチソウ

北米から観賞用として移入されたセイタカアワダチソウは、土手などいたる所で繁殖しています。

では、セイタカアワダチソウはどのような影響を及ぼしているのでしょうか。

- ① セイタカアワダチソウの花粉や種（綿毛のようなもの）はアレルギーの原因の1つとされています。
- ② セイタカアワダチソウの根から他の植物の成長を妨げる物質を出して、在来の野草をやっつけると言われています。

ケナフ

熱帯林などの森林資源を伐採から救うため、紙の原料を木材以外の資源に転換していくという動きのなかで、今、ケナフという植物が注目を集めています。繊維が紙の原料に適している、成長が早く栽培しやすい、二酸化炭素をよく吸収し地球温暖化防止に役立つなどの理由により、全国各地でこの植物の栽培がさかに行われています。

しかし、その一方でケナフが帰化植物として日本各地に定着することを懸念する声もあります。

ケナフを在来植物が生えている自然の中に植え続けているとどうなるのでしょうか。今のところ、ケナフは一年草で発芽力が強く、自生能力はないと言われていますが、繰り返し植えられているうちに世代交代を重ねたケナフの適応力が増していくかもしれません。また、同じ場所に繰り返し

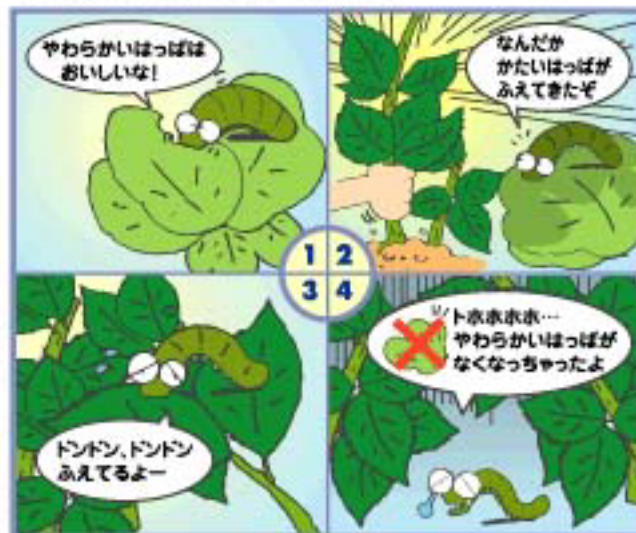


ケナフ

し植え続けられれば、人為的に自生状態を作り出しているのと同じことなのではないでしょうか。もしも、八幡川の土手でケナフが咲き乱れるようになれば、ほかの植物はどうなるのでしょうか。巨大なケナフに日光を遮られ、光合成ができなくなってしまいます。

ケナフ自体、劇的に地球温暖化を改善してくれるわけでは決してありません。環境問題は人間社会が生み出した問題であり、私たち自身の責任において解決すべきであり、温暖化防止は、二酸化炭素の排出をいかに減らしていくか、ということから考えていくべきなのです。

ケナフはあくまで環境問題全体を考えていく上でのシンボリックな存在の一つとして捉えるべきなのではないでしょうか。



クズ

我が国の在来種であるクズは、地上を這う茎からも根を出ることができるなど、極めて繁殖力が旺盛です。この着床力を買われて、道路や農地の法面の侵食防止のために渡米しました。しかし、繁殖しすぎたため、今では邪魔者になっているようです。



クズ